

06 広がりを見せているアライ（性的マイノリティ）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市が
送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、高
木悠未がお届けします。今日のタイトルは「広がりを見せて
いるアライ」です。

皆さんは「アライ」という言葉を知っていますか。アライ
とは仲間を意味する英語が由来で、LGBTQなどの性的マ
イノリティを理解し、支援する人のことをいいます。

福岡市にあるLGBTQの支援団体「OVER THE
RAINBOW」代表の荒牧明楽さんは、生まれたときに割
り当てられた性別が女性で、自認する性別が男性であるトラ
نسジェンダーです。今ではたくさんのアライに支えられ、
講演会や啓発活動をしていますが、以前はずっと孤独や葛藤
を抱えていました。

【荒牧さん役】私が体と心の性の違いを感じ始めたのは、
小学生になる頃でした。当時はランドセルの色が女の子は赤、
男の子は黒がほとんどで、私は赤いランドセルが嫌でたまり
ませんでした。中学校でスカートの制服を着ることも自分
は屈辱でした。日に日に違和感と苦しさが増し、「どうせ誰に
も分かってもらえない」と心を閉ざしていきました。

25 (ナレーター) 高校時代は傷つかなくていいように、ラクに生きるために、「女性を演じ切っていた」という荒牧さん。そんな中、初めて出会ったアライは高校の保健室の先生でした。

30 【荒牧さん役】先生は親身に話を聞いてくれて、LGBTQに関する本を貸してくれました。きちんと受け止めてもらえたことがとてもうれしくて、友達にも勇気を出して打ち明けました。すると、驚きながらも「あなたはあなただから、何も変わらないよ。話してくれてありがとう」と言ってくれたのです。そこで自分らしく生きることの大切さを実感しました。

40 生きづらさや不安を抱えている性的マイノリティにとって、ありのままの自分を受け入れてもらえることは何よりも大事です。「男だから」「女だから」「周りにいないから」と決め付けず、その人自身を見てほしいのです。

45 (ナレーター) 今、少しずつ広がりを見せているアライにはさまざまな形があります。当事者や支援活動に関わる人だけでなく、LGBTQについてもっと知ろうとするだけでもアライです。性的マイノリティに寄り添うアライが増えていくことで、性別にとらわれず、一人一人の個性を尊重する社会になるのではないのでしょうか。

(本文930字)